



保育支援を体験された保育者の方々の声



- 障害児の子どもの感覚や感じている世界観を学ぶことで子どもへの理解が深まりました。特に担任をもっている先生は対応に困ることが多いので、適切な支援方法を学べたことが保育に非常に役立ちました。
- 保護者を理解することや保護者支援の大切さを学びました。保護者との関係づくりはどの保育者も抱えている悩みの一つです。また保護者の様子や考え方も時代とともに変わってきているので、今必要としている支援について一緒に考え、アドバイスをもらえたことでストレスが軽減されました。
- 園側の考えや保育者自身の思いを一方向的に押し付けるのではなく、保護者のありのままの姿を受け止めることのできる保育者が増えてきました。また、保護者の話を上手に聞けるようになってきました。私たちは伝えることばかりに一生懸命になりすぎてしまいがちで、どうにかしてお母さんの悩みや質問に対してうまく答えを出してあげたいという気持ちが先にきてしまいがちですが、話を聞いて受け止めることでお互いの関係性も良くなり、保育者自身もがんばりすぎないでいいという気持ちになれました。カウンセラーに子ども・保護者の支援だけでなく、保育者の支援もしてもらえたので、大変ありがたかったです。私達も学んだことを若い先生に伝えていき、どの職員も共通意識をもって保育をしていけたらと思います。
- 事例に対するフォローアップや緊急時の対応、小学校への連携についてのアドバイスがとても役立ちありがたかったです。虐待などについては、カウンセラーの保護者支援があったおかげで緊急事態にならなかったと思います。
- 職員間ではいろいろ話もでき、お互いの思いに共感することはできますが、考え方や視野が狭いので、カウンセラーのように立場が違う方に相談できる機会があるのは、とてもありがたいと思います。
- 子どもの描いた絵や作品をカウンセラーに心理的理解をしてもらったことで、心境、気持ち、家庭が見えてきました。背景があつての表現なのだとわかりました。
- 行事の合間にプレイセラピーを行ってもらったことで、その時間がその園児にとってのよりどころになっていました。1対1でじっくり関わってもらっていなかったら、その園児はもっと荒れていたかもしれません。
- 園から見てほしいとお願いした園児だけでなく、他にも気になる子どもについてコンサルテーションで話し合いました。「性格だから仕方ない」、「小さい時からそうだから仕方ない」と思っていたので、カウンセラーからの指摘は保育者の気づきになりました。
- 保護者カウンセリングをするようになって、そのお母さんと話しやすくなりました。保育者が伝えても「どうせ手のかかる子だから」と投げやりで「話したくない」と前は拒否的だったのが、話しかけると立ち止まってくれるようになりました。カウンセリングを受けたことで「聞いてもらえるんだ」という意識が芽生えたように思います。
- 乳幼児健診で発達遅れなどを指摘され、療育などを勧められても行く気がなかったり、抵抗があったりする保護者が多いので、園内で相談できるのは保護者も話しやすいと思いました。